

2027年3月期 第1四半期 連結決算の概要

2026年8月21日

株式会社今仙電機製作所

東証スタンダード・名証プレミア 証券コード：7266

I . 2027年3月期 第1四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II . 事業概況

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

I . 2027年3月期 第1四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II . 事業概況

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

2027年3月期 第1四半期 連結業績 実績

- ▶ 前年同期比で**売上高は増加、営業利益は大幅増、経常利益および当期純利益は黒字化**となりました

売上高

21,495 百万円

営業利益

519 百万円

経常利益

740 百万円

当期純利益

396 百万円

2027年3月期 連結業績 見通し

- ▶ 通期の見通しについては**期初の予想を据え置き**いたします

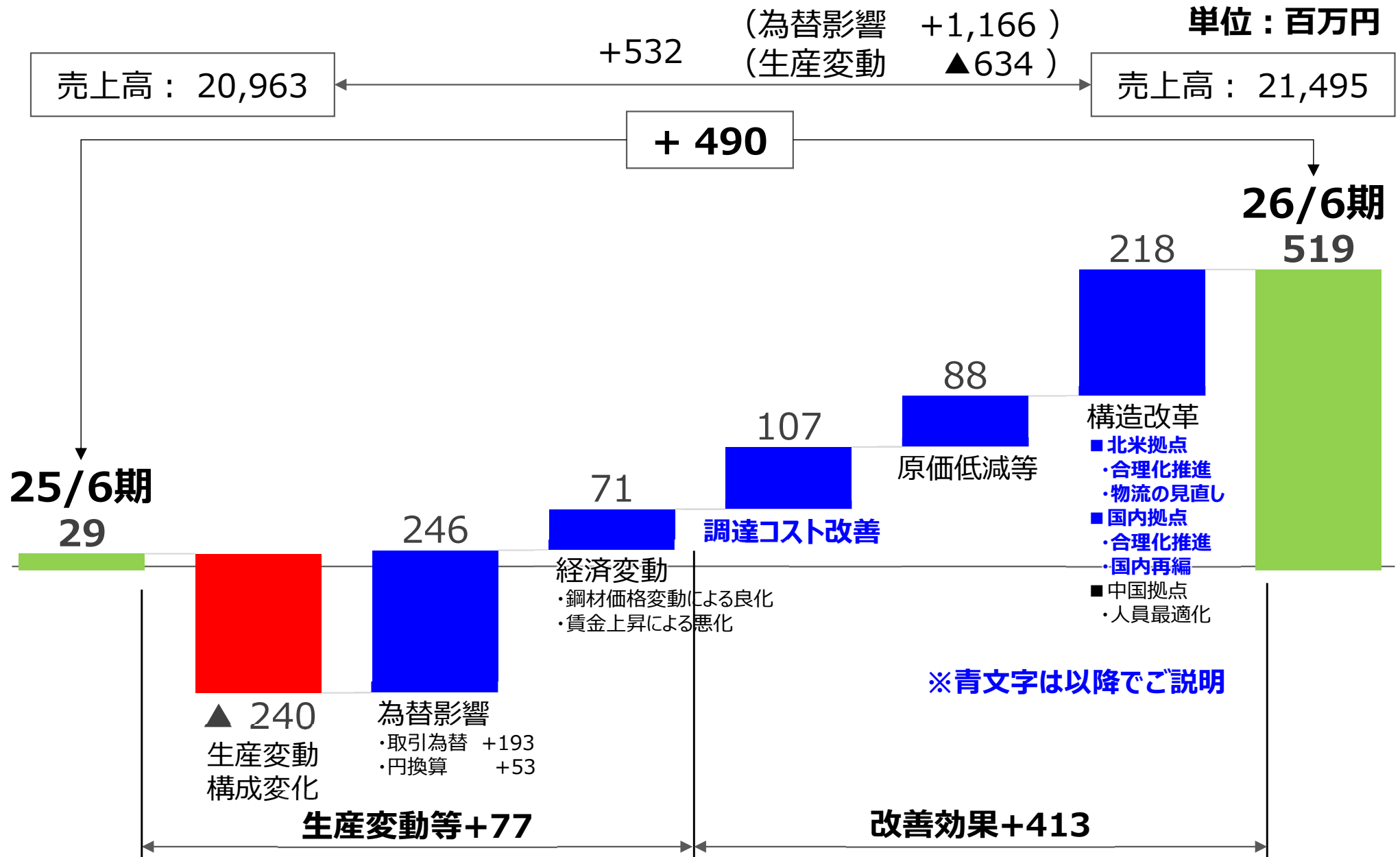
通期は当初の計画通りに推移しておりますが、計画からのさらなる上積みを目指し、取り組みを進めてまいります

(単位：百万円)

	25/6期 実績	26/6期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	20,963	21,495	532	2.5%
営業利益	29	519	490	17.9倍
経常利益	▲67	740	808	黒字化
当期純利益	▲190	396	587	黒字化

為替		25/6期 実績	26/6期 実績
	USD	144.6円	159.6円
	CNY	20.0円	23.5円
	THB	4.4円	4.9円

下期偏重の収益構造の中、第1四半期より前年同期を上回る結果となりました

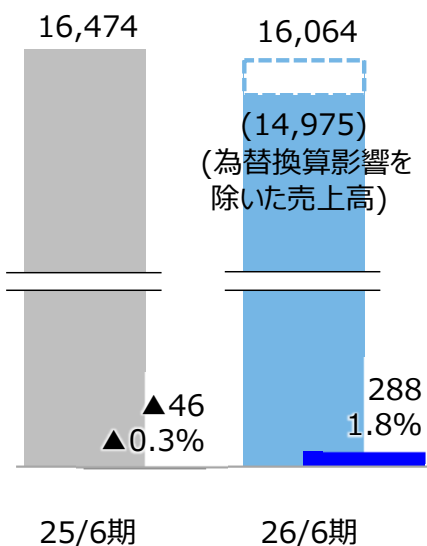


減収影響を受けたものの、調達コストの改善や原価低減、構造改革の効果により増益

【前年同期比】

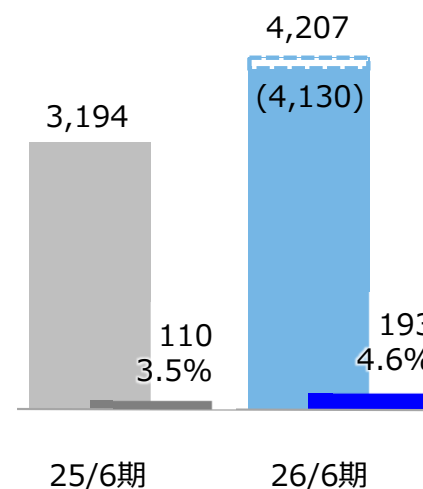
(単位：百万円)

シート・電装事業



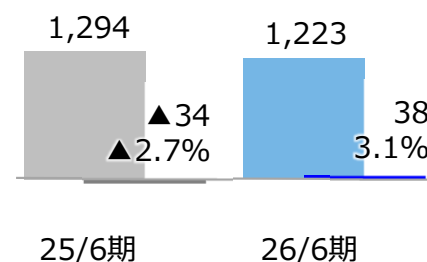
売上高	▲409 (▲2.5%)
インドでの増産はあるものの単体、中国における減産のほか、北米でのモデル末期機種生産終了により減収となりました	
営業利益	+335 (黒字化)
国内外における調達コスト削減、合理化推進、北米拠点での物流の見直し、国内再編の効果などにより黒字化となりました	
為替換算影響額	売上収益 +1,007
	営業利益 +38

電子事業



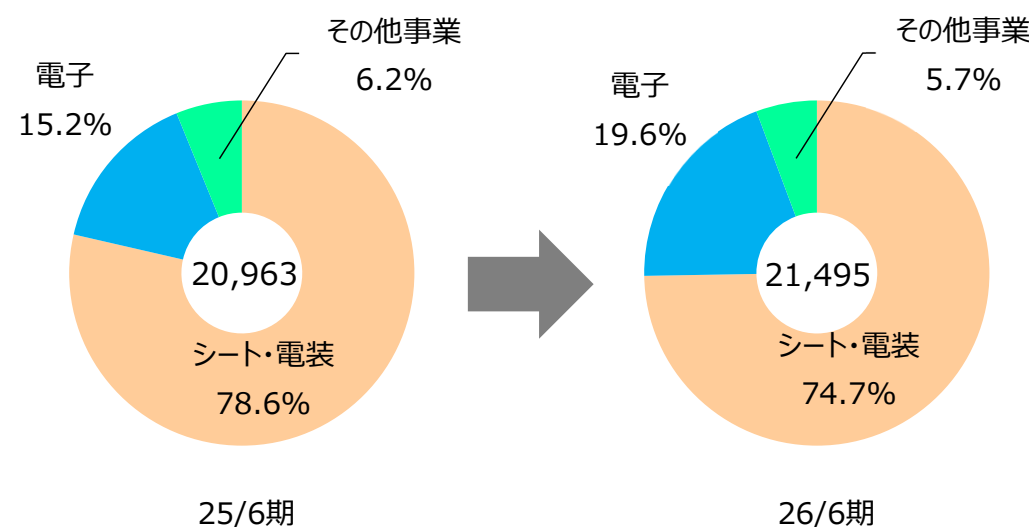
売上高	+1,013 (+31.7%)
国内外での受注増に加え、為替影響により増収となりました	
営業利益	+82 (+74.2%)
単体での開発費負担があるものの、増収影響により増益となりました	
為替換算影響額	売上収益 +158
	営業利益 +13

その他事業



売上高	▲71 (▲5.5%)
ワイヤーハーネス事業での受注減少により減収となりました	
営業利益	+72 (黒字化)
減収影響があるものの、 原価低減活動 により黒字化となりました	
為替換算影響額	売上収益 0
	営業利益 0

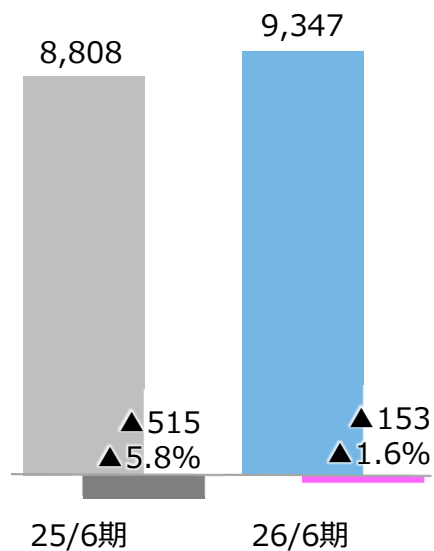
事業別 売上高構成



【前年同期比】

(単位：百万円)

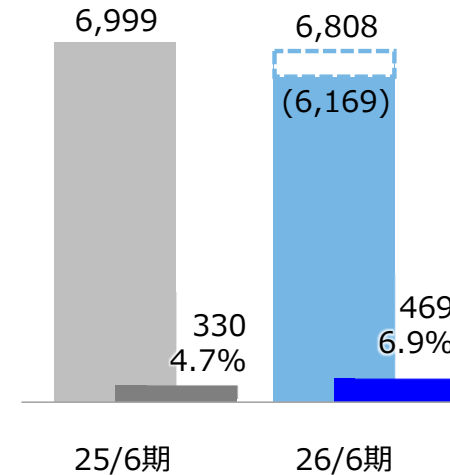
日本



売上高 +539 (+6.1%)
電子事業での増産により増収となりました

営業利益 +362 (損失縮小)
増収影響に加え、調達コストなどの原価低減活動、自動化による合理化および国内再編による構造改革の効果により損失縮小となりました

北米

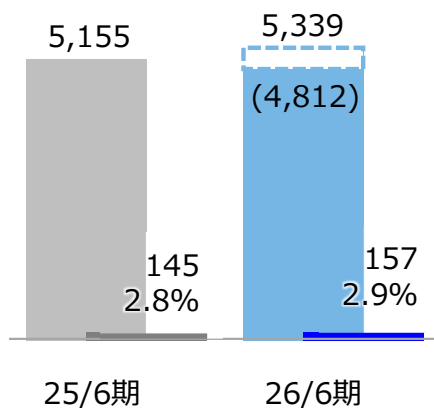


売上高 ▲191 (▲2.7%)
為替影響があるものの、モデル末期機種の生産終了により減収となりました

営業利益 +139 (42.1%)
減収影響はあるものの、自動化による合理化や外部倉庫取り込みによる物流改善の効果により増益となりました

為替換算影響額	売上収益	+639
	営業利益	+41

アジア

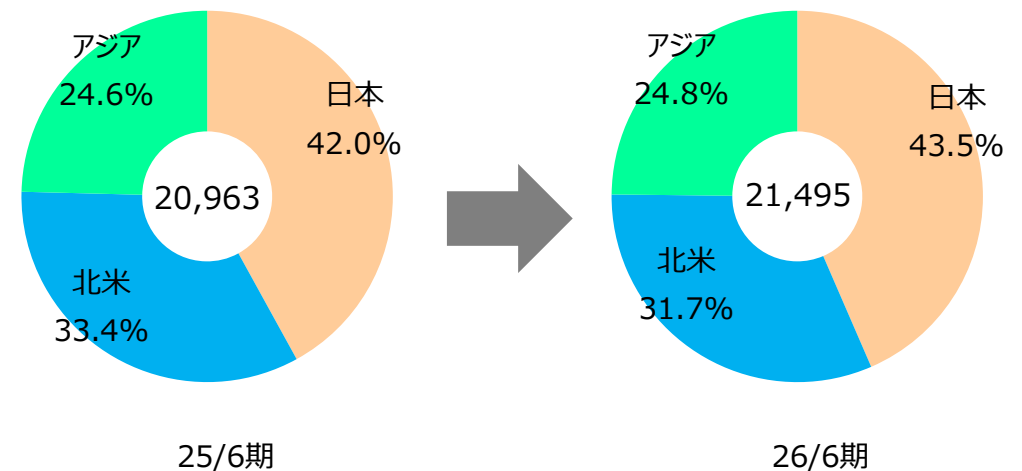


売上高 +184 (+3.6%)
中国における生産減少があるものの、インドでの生産増加に加え為替影響により増収となりました

営業利益 +12 (+8.3%)
中国における減産影響があるものの、人員の最適化、原価低減活動および為替影響により横ばいとなりました

為替換算影響額	売上収益	+526
	営業利益	+11

地域別 売上高構成



(単位：百万円)

設備投資

	25/6期	26/6期	増減額
国内	333	797	465
北米	572	422	▲ 150
アジア	115	96	▲ 19
合計	1,019	1,315	296

＜主な投資内容＞

・国内（新規立ち上げ、体質強化）

電子事業における新規車種立ち上げへの対応や、国内再編および合理化への投資、「造りの進化」に向けた将来投資を実施したことにより増加

・北米

前期において新規車種立ち上げへ投資が集中したため、当四半期では減少

減価償却費

	25/6期	26/6期	増減額
国内	369	395	26
北米	143	105	▲ 38
アジア	255	246	▲ 9
合計	767	746	▲ 21

・国内

前期における国内再編および合理化投資により増加

・北米

前期における新規車種立ち上げによる増加はあるものの、モデル末期車種の生産終了に伴い償却費は減少

(単位：百万円)

	26/3期	27/3期 予想	増減額	増減率
売上高	87,149	86,000	▲1,149	▲1.3%
営業利益	2,037	3,000	962	47.2%
経常利益	2,122	2,800	677	32.0%
当期純利益	※ 2,480	2,300	▲180	▲7.3%

※26/3期ではテネシー工場売却益852百万円および投資有価証券売却益164百万円を計上しております

為替	26/3期		27/3期(予想)	
	USD	150.7円		150.0円
	CNY	21.2円		21.5円
	THB	4.7円		4.6円

2027年3月期 連結業績予想に変更なし

I . 2027年3月期 第1四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II . 事業概況

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

北米拠点の体質強化



計画

実績

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度

—重点施策— 「北米再編による収益強化」

黒字転換

増益・体質強化

テネシー工場をオハイオ工場に集約

塗装設備導入 着工中
【27年9月稼働予定】

工場拡張

塗装設備更新（能力向上・導線改善）

生産ライン自動化（合理化）



—物流費用の改善—
新建屋に外部倉庫取り込み



搬送自動化による
工程の連結化

省人化 **14名** 削減
※2026年度計画
全7ライン分の合計人数

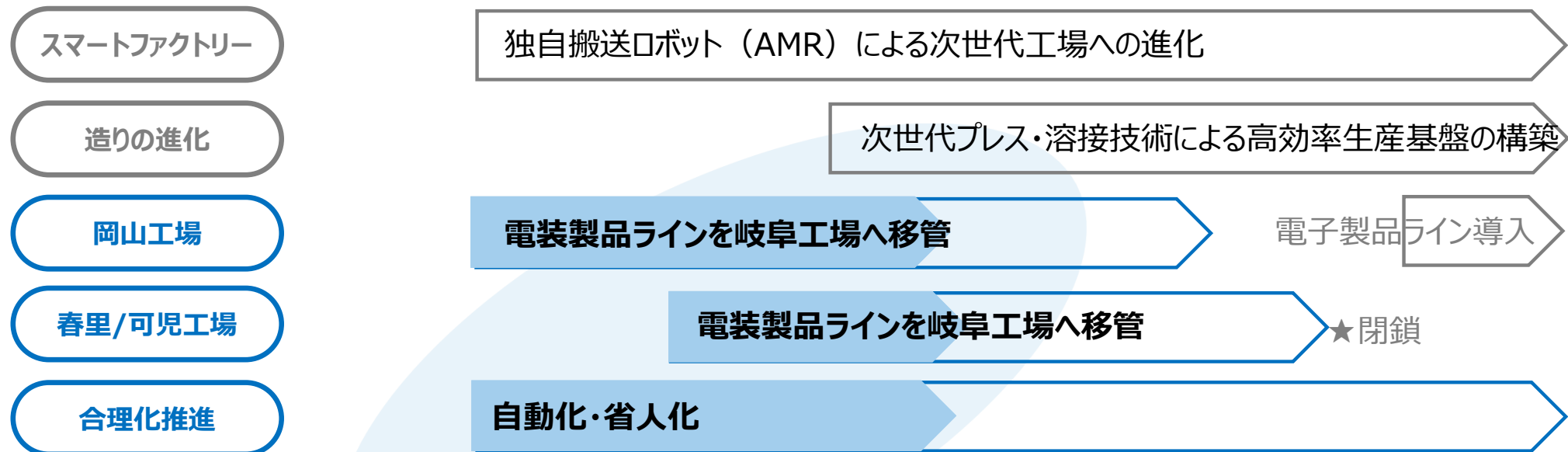
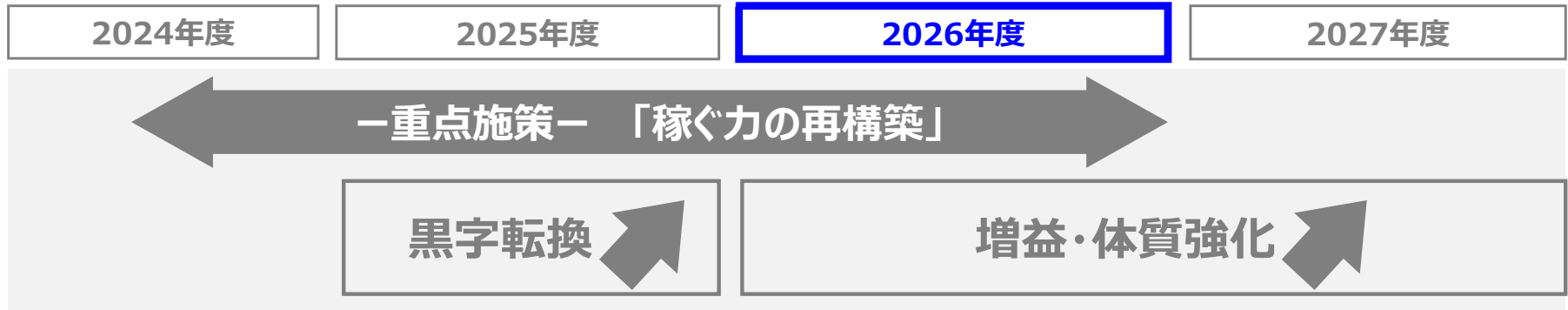
25年度での取り組みが
当第1四半期の利益上積み貢献

拠点集約により黒字化 あわせて今後の生産拡大への対応とコスト競争力の強化を推進

国内再編（生産拠点の最適化）



計画 実績



25年度からの効果刈り取りが
当第1四半期の利益上積み貢献



25年度からの構造改革効果の刈り取りにより黒字化 今後も引き続き体質強化の取り組みを継続

【国内再編 -取り組みのご紹介-】

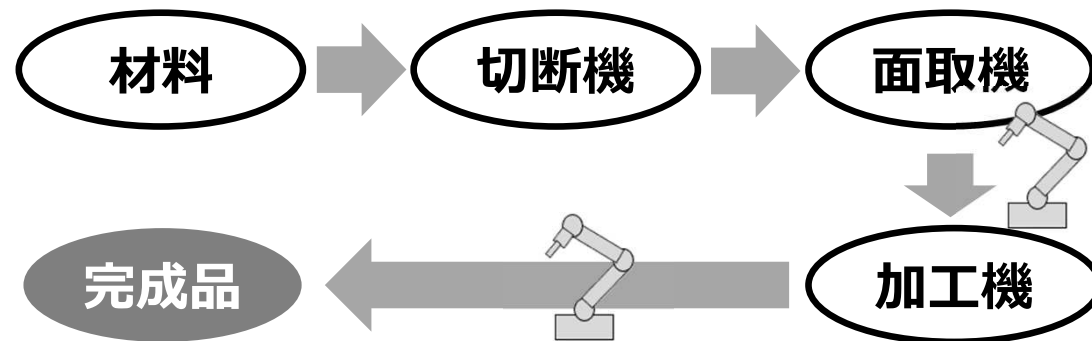
■ 岐阜工場、岡山工場を主とした積極的な合理化の取り組み

岐阜工場

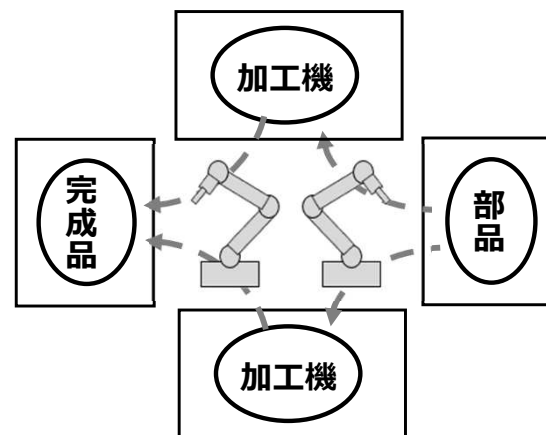
2026年3月 稼働開始



外注部品の内製化に伴う無人製造ラインの導入



岡山工場



自動部品セット/払い出しロボット導入による**省人化**

- ・ バラ積みされた部品をカメラで判別し自動ピッキング
- ・ ピッキングした部品を加工機へ自動セット払い出し

今後も引き続き積極的な合理化投資を推進

調達領域のコスト競争力強化

計画 実績

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度

—重点施策—
「調達構造の再構築による材料費率の改善」

取引先との協業強化

取引先との協業による競争力強化

BCP

調達先の多様化によるコストとBCPの両立

現調化の取り組み

生産/開発の現地化 (北米/中国/タイ/インド)

現調化率のアップ

グローバル最適

各地域の特産物発掘

物流コスト負担軽減の取り組み

25年度での取り組みが当第1四半期の利益上積み貢献

競争力強化に向けた最適調達構造の構築を推進

現地化の取り組み

グローバルの各地域で取り組みを強化している地産地消/現地化について、これまでの生産、調達領域に加え、**開発/量産試験の現地化**も推進しています

シート製品の強度試験機導入

中国拠点



2025年導入

タイ拠点



2026年4月導入



強度試験機

新製品開発の迅速化

量産定期試験の迅速化

試験費用低減

造りの地産地消とともに開発の現地化を進め、調達構造の改善につなげてまいります

マツダ 新型CX-5採用製品

2026年5月発売のマツダ新型CX-5に当社の様々な製品を採用いただきました

チルトモーター

座面の前後傾を制御

リクライニングユニット

シートの背もたれ角度を調整

■ シート機構製品

■ 電子製品

リア統合ECU ダッシュ統合ECU



複数の車載機能を制御するユニット

バックアップ電源



電源欠落時に電源を供給し
ドアロックを解除

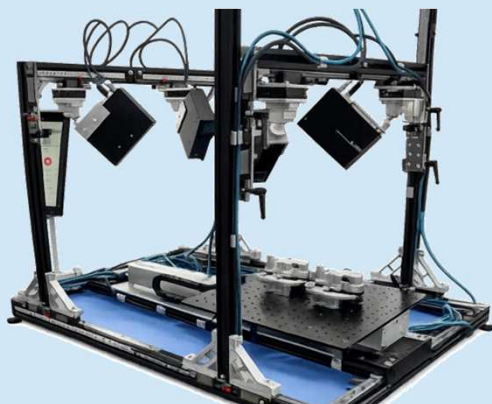
キーレスブザー

今後もさらなる採用車種拡大に向けて取り組んでまいります

「人とくるまのテクノロジー展 2026」(横浜/名古屋) 出展

当社グループのカメラ/画像処理事業を担うシーマイクロは、カーメーカーで足回り部品の検査への試験導入実績を持つ3Dインライン検査機を「人とくるまのテクノロジー展 2026」(横浜:5/27-29 名古屋:6/17-19)へ出展し、高い関心をいただきました

展示製品



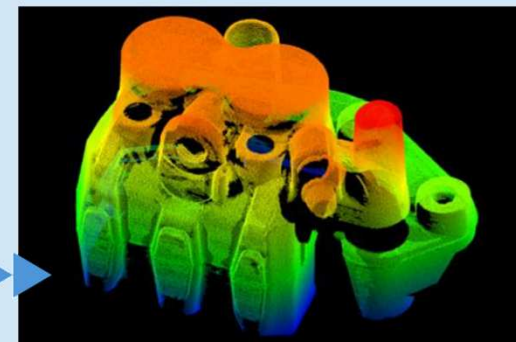
3Dインライン検査機

目視・2D画像



違和感がなく良品にみえる

3D画像(シーマイクロ3Dカメラ)



複雑形状でも細部まではっきり見える！



良品に見える微小な異常も、3D形状検査で「見えない不良」を可視化

様々な検査対象に応じカスタマイズすることで幅広く対応

■ 個人投資家向け会社説明会

名証IRセミナー in 東京 6月2日(火) 全電通ホール

当日は245名にご来場いただき会場での質疑の他、アンケートにて貴重なご意見をいただきました。これらのお声を今後のIR活動に活かしてまいります。



■ 株主総会での製品展示



会場に来られた株主の皆様にご覧いただきました。製品の優位性や技術力をご認識いただき、引き続きの当社株式保有に向けてPRする場となりました。

■ 会社紹介映像を公開

6月23日に会社紹介映像を公開しました。当社の魅力や成長ビジョンを発信し、IR・採用活動の強化と新たな機会創出、企業価値向上の推進力として、今後も積極的に活用してまいります。



←動画を見る



さらなる知名度向上と投資対象としての当社PRに向けて取り組んでまいります

IRカレンダー

※日程、場所については変更となる場合がございます

2026年

8/7 27年3月期 第1四半期 決算発表

本日

8/21 27年3月期 第1四半期 決算説明会

11/中旬 27年3月期 第2四半期 決算発表

11/下旬 27年3月期 第2四半期 決算説明会

12/4-5 名証IRエキスポ出展 @名古屋 吹上ホール

機関投資家向け説明会：各期毎の計4回の決算説明会の開催予定
個人投資家向け説明会：年2回の会社説明会を開催予定

移動空間の未来を創る

Challenge by New Imasen

- 本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- 実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所
経営企画部 企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>